

2 景観の現状

- めざそうとする景観を創り出すためには、今ある良い景観を守ることや美しいものを創り出したり、改善へ導いたりすることが必要となります。
- そのためには、市内の景観形成の成り立ちや景観の現状がどうなっているのかをはじめ、そこに住んでいる人はその景観に対してどのように思っているのかを知っておく必要があります。ここでは、これらのまちの景観に関する現状を明らかにします。

1. まちの景観の成り立ち

- 江別市は、地形上、石狩平野に突き出た野幌丘陵と低地に大別されます。野幌丘陵は緑豊かな市街地と、先人の思いにより今ではかけがえの無い財産となった野幌原始林を始め、先人の住居地跡が今も眠る段丘地形や豊かな自然が残る沢が自然景観上のひとつの特色となっています。また、野幌丘陵をとり囲むように広がる低地部は、母なる川、石狩川を始めとした大小の河川などの自然景観と、たゆまぬ先人の努力により耕地化され、耕地防風林のある豊かな農村風景があります。この風景も、江別という地を印象付ける象徴的な景観となっています。
- 身近な自然から、四季折々の色や香りまでもがはっきりと感じられる気候や、季節を通じて吹く強い風、4ヶ月余りにも及ぶ積雪期の白を基調とした風景なども、他の景観とあいまって江別の景観形成における重要な要素となっています。
- 明治時代に屯田兵や開拓移民による本格的な開拓が始まった農村部は、いまでも黄金色に染まる小麦畑や水田、日本のデンマークとも言われた酪農の風景、さらに耕地防風林とが一体となり、開拓の槌音が聞こえるような江別の原風景ともいえる景観があります。
- 江別地区は、石狩川を利用した本道縦横断道の要衝地であった幕藩時代を経て、明治15年に開通した鉄道と石狩川の舟運により水陸交通の要衝として、人々と物資が集まる「雑穀の街」として栄えた地区です。今も随所に歴史を感じさせる建物や昭和のたたずまいを感じる町並みが残り、どこか懐かしい、歴史と新しさが同居する景観があります。
- 良質な陶土と燃料となる豊富な木材によりれんがの製造など窯業産業で開かれた野幌。今でも随所にれんがの建物が残る中で、集合住宅や商業施設などが立ち並び賑わいのある中心性が感じられる景観があります。
- 当時は「夢のまち」と称される程の卓越した住居環境の街として誕生した大麻団地。現在も緑豊かで成熟した街並みと、原始林を背景に大学などが立地する文教地区の若々しさが同居する大麻・文京台地域特有の景観があります。
- 豊幌地域などの郊外住宅地は、農村景観と市街地景観が調和し織りなす景観があります。



昭和30年代の江別の町並み



煉瓦工場の両のぼり窯

2. まちの景観の体系

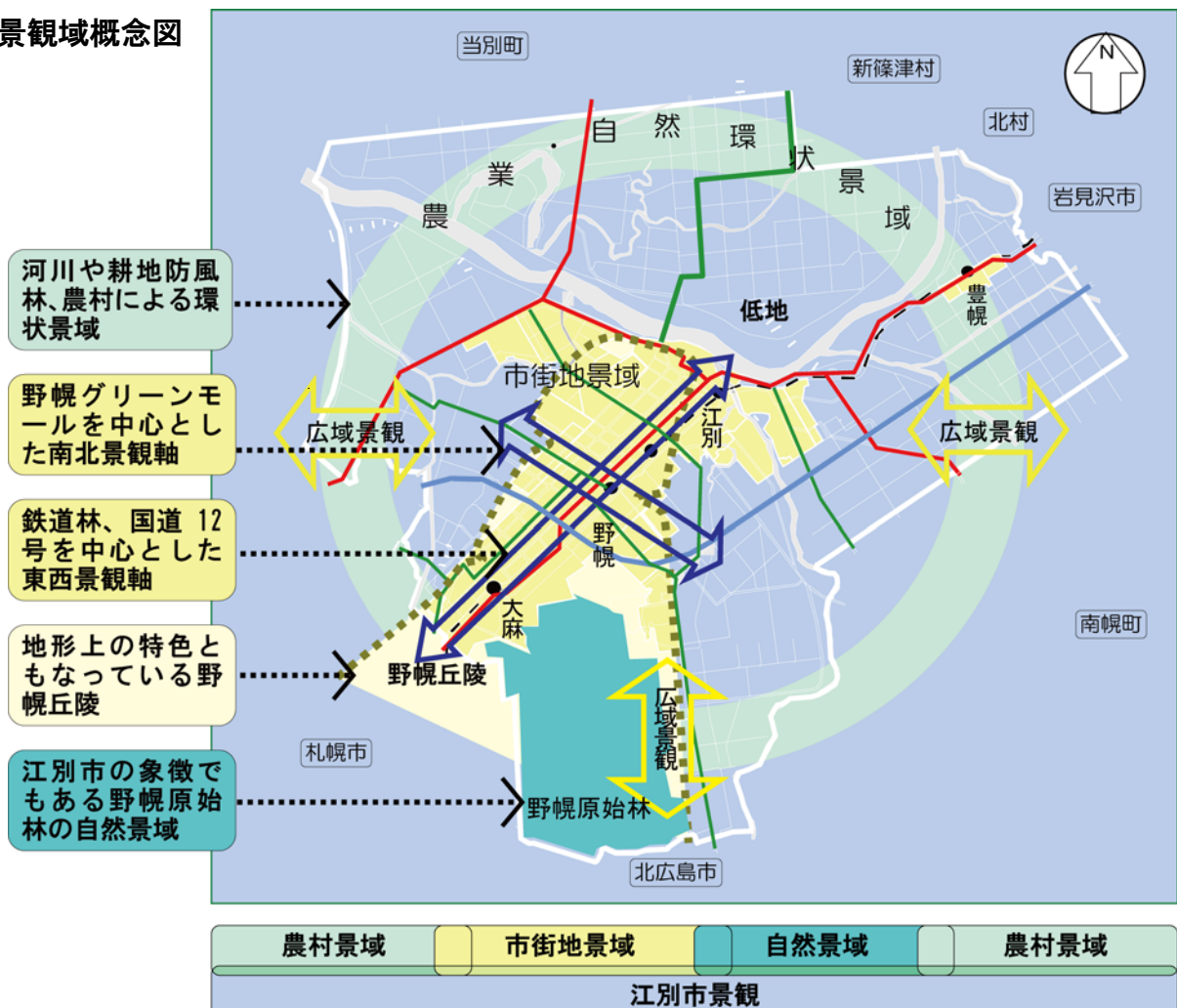
(1) 景観構造

- 江別市の景観づくりをすすめるにあたっては、地形や地域性、その成り立ちなどの要素から、大きな区分である景域を設定する中で、江別市の景観の基本構造を明らかにします。

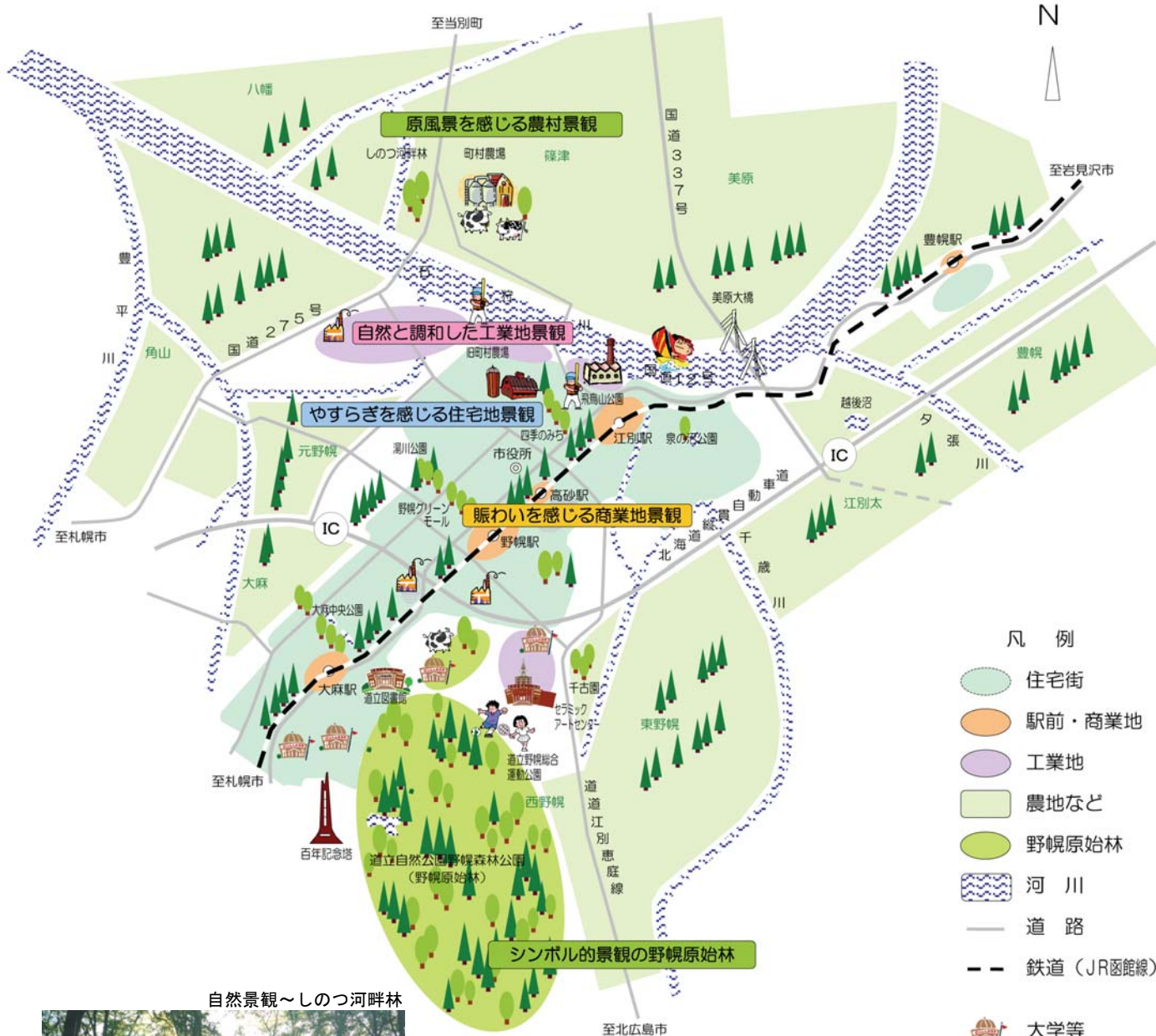
(2) 景観構造の設定

- 景観景域は大きく、主に低地に広がる農業・自然環状景域と野幌丘陵地に形成された市街地景域に区分されます。景域は、それぞれの特徴を持つ一方、展望景観などの要素から互いに関連する関係にあるといえます。
- 江別の原風景ともいえる農村・自然景域は市街地を取り囲むようにあります。近隣市町村域も含めた北海道らしい広々としたその景域は、来訪者や都市住民にとっても心の豊かさや潤いを与えてくれる風景となっています。また、市街地景域は形成過程におけるそれぞれ地区の歴史や文化を色濃く残しつつ、鉄道林や国道 12 号沿いの東西景観軸と野幌グリーンモールを中心とした南北景観軸を中心に自然環境と調和した住宅都市としての市街地景域があります。

(3) 景観域概念図



まちの景観イメージ



自然景観～しのつ河畔林



自然景観～野幌原始林・瑞穂池



車窓からのJR鉄道線の景観～大麻地区



歴史的景観～千古園

3. まちのいろいろな景観

- 江別のまちにはいろいろな景観があります。



彩りの景観～いずみ野小学校の花壇



街なかのＪＲ鉄道線の景観～江別地区



住宅街の景観～いずみ野地区



街なかの自然景観～大麻中央公園



北海道らしい景観～酪農学園精農寮



農村景観～豊幌南私有防風林



自然豊かな河畔林景観～篠津川(中津湖)



冬の自然景観



西野幌の工業地の景観～RTN地区



レンガのある景観～バス待合所(ランドマーク施設)



市街地縁辺部景観～野幌美幸町



幹線道路の景観～国道12号



商店街の景観～8丁目商店街



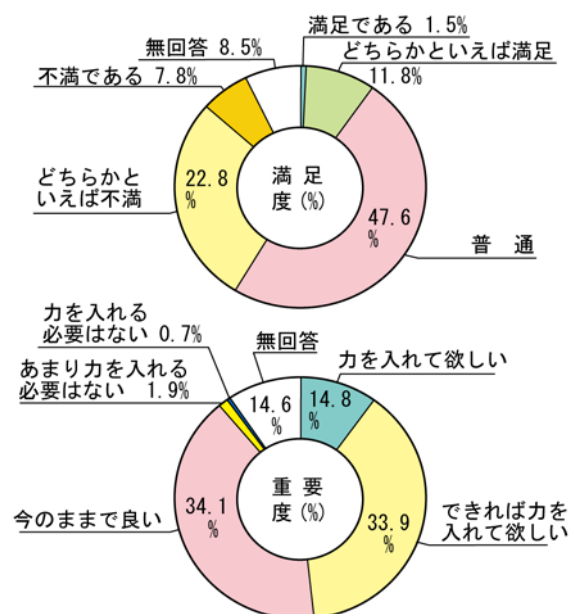
改善したい景観～交差点の電線

4. まちの景観の課題

(1) 景観に力を入れて欲しいと感じている市民が多いこと

- 平成14年に行った「江別市まちづくりアンケート」では、まち並みなどの都市景観についての満足度は「普通」と感じている市民が大勢を占めていますが、「満足」より「不満」と感じている市民の割合が2倍以上となっています。
- さらに、約5割近くの市民が都市景観に力を入れることが重要と考えていることも明らかになっています。
- このことから、景観に対して不満と感じる市民の割合を減少させることが必要だと思われます。

まち並みなどの都市景観について



(2) 景観の将来像や景観づくりの方向性が明らかになっていないこと

- 近年、景観づくりへの意識が高まるなかで、花のある町並みが多くなるなど、まちの景観は徐々に良くなってきてはいますが、それぞれが思い思いに行っているのが現状です。また、どんな景観のまちに住みたいのか、どんな景観にしていきたいのかといった、市民合意によるまちの景観の将来像が描かれていないのが現状です。
- 景観づくりを進める際にも、例えば街路樹を植えるのは賛成するが、家の前や落ち葉が自分の家に入るのは困るといったことをどうするのか、どんな景観を優先して守りどんな景観は改善すべきかといった身近な課題や、乱立する看板やのぼりはどの程度ならば「まちの活気」としてとらえるかなどといった考え方、様々な恩恵を受けている野幌原始林や鉄道林などを守るには市民として行政としてどのような役割を担うのかなど、行政を含めて市民全体として、景観づくりの考え方や方向性はどうかの合意形成がなされていないのも現状です。



大麻 14 丁目の街路樹と花壇

(3) 江別を代表するれんがの良さが浸透していないこと

- 野幌を発祥の地とし、その歴史性や文化を語るうえで欠かせない江別のれんがは、建築資材としてのみならず江別を象徴するといっても過言ではない地域資源であるとともに、その風合いから自然や温かみを感じさせてくれる優れた景観素材です。
- 「江別のれんが」は平成16年に北海道遺産として選定されましたが、「れんがのまち」としては、市内を見渡してもれんがの使われ方が他のまちと比べて特徴あるものにはなっていないように思われます。
- 理由としては、他の資材に比べると始めはやや割高に感じられますが、長い目でみると維持費が少なく、風合いが増すなど、れんがの持つ優れた特性や利点、使い方などが市民のみなさんに浸透していないことも一つの要因と考えられます。



江別市指定文化財～火薬庫



セラミックアートセンター～西野幌

(4) 景観を悪くする要素の改善が図られていないこと

- 照明灯や標識などが壊れていたり塗装が傷んだままのものや、廃屋や廃材置き場、電柱や街路樹に付けられた張紙広告などが、見苦しい状態で放置されているものが目に付くようになっています。



傷んだ道路標識

(5) 景観づくりに対し積極的に取組める社会情勢にないこと

- 景観づくりの先導的役割を担う公共施設の整備をはじめ、企業の活動などにおいては、近年の経済状況などの影響から、景観づくりに配慮した投資が控えられ、積極的な景観づくりに取り組めない状況が続いています。



札幌学院大学前バス待合所（ランドマーク施設）